

追弔の偈 戦争にいのち奪われたあなた方よ 作詞 高史明

ついちよう

うた

こ

さみよん

清らかなる光り

舞い輝くとき 音もなく

世界の海のここ かしこから

起き 立ち上がる

あなた方。

黒闇の海底は揺れ

海の慟哭がわき上がる。

清らかなる光り

舞い輝くとき 音もなく

世界の大地のここ かしこから

起き 立ち上がる

あなた方。

蒼ざめた地の底は揺れ

地の慟哭がわき上がる。

戦争にいのち

奪われたあなた方よ。

あなた方がいま

その至純なる眼のうちに映し

とられているものは 何か。

息き絶えなんとするとき

なぜ と叫んだあなた

息き絶えなんとするとき

お母さん と叫んだあなた。

息き絶えなんとするとき

無言のまま ただ

蒼天を見上げるだけであったあなた。

あなたの虚ろなる眼が いまはの際に

映しとったものは 何か。

天空に慟哭が満ちわたる。

姿なきあなた方よ。

あなた方はいま

大なる光輪のもとに集われた。

石が哭く そこに。

草が哭く そこに。

波が哭く そこに。

空が哭く そこに。

あなた方が まっすぐに

見つめようとするのは 人間。

その昔 すでにして

「罪悪深重・煩惱熾盛」と

呼ばれていた人間。

人間が 自然の主人に

なるうとしたことは おのれの無明に

火を放つことであった。

姿なきあなた方よ。

あなた方が いま静かに

見つめておられるのは

そのどす黒い無明の炎であるのか。

炎と化した無明は

西風にのって 地球を一巡し

全世界に黒炎の嵐を呼び起こした。

火焰にのまれた大地。

くり返し焼かれた大地。

炎はさらなる黒炎を呼び

うねり狂い 押し合い

返し合い 燃え重なり

生きとし生けるものいのちを

の
呑み

いっそう燃え盛り

海を沸騰させた。

ついに 天空を切り裂いた。

戦争に正義という名の

冠

をかぶせたのは 誰か。

原子爆弾を爆発させた人間。

もの言わぬあなた方よ。

わたしたちはいま まっすぐに

見つめられる あなた方に。

無明に酔いしれているわたしたち

罪に罪を 重ねんとしているわたしたち。

あなた方の

深い沈黙からの眼差しに

わたしたちはいま まっすぐに

見つめられる。

何をなすべきか わたしたちは。

いのち奪われたあなた方が

いのち奪われてなお

生きとし生けるもののいのちを

見守らんとしているとき。

蒼ざめた耳底に

あなた方の澄みきった声が聞こえる。

あなた方の声。

いのちの声。

その声。

なむあみだぶつ

あなた方は すでにして

数知れない悲しみを

堪えてきたというのに

なお 人間の悲しみを

悲しもうとされるのか。

打ち震える悲しみ

切り裂かれた天空に

一滴の涙が光る。

姿なき方々よ。

全世界の 数知れない仏さまよ。

いまこそ わたしたちは

あなた方に倣いたい。

大いなる光輪のもとに集われたあなた方

仏さまよ。

生きとし生けるものの

いのちを

絶え間なく称えられるあなた方

仏さまよ。

真実の智慧をもって

世界の平和を願われるあなた方

仏さまよ。

わたしたちは いまこそ

あなた方を称えよう。

あなた方は あなた方の願いを

わたしたちが わたしたちの

願いとすることをお許し下さるか。

わたしたちはいま わたしたちの

悲しみを自らの悲しみとして下さる

あなた方とともに

仏さまよ

いのちの声をいただごう。

なむあみだぶつ

永遠なるいのちよ 光栄あれ。

仏さまとともにある平和よ

永遠なれ。

なむあみだぶつ

なむあみだぶつ

なむ